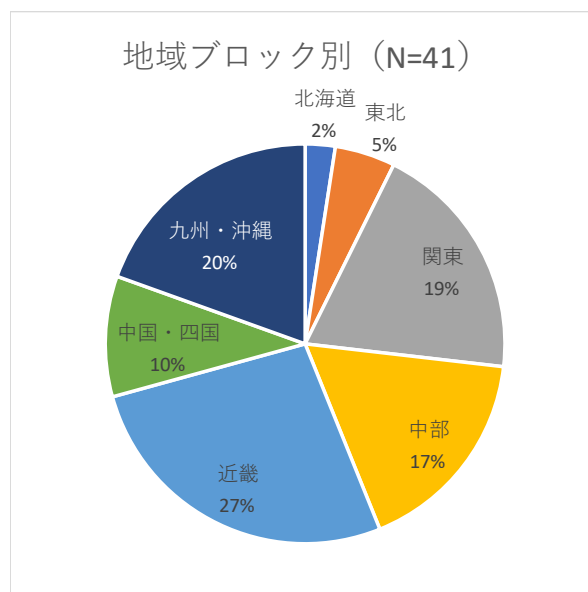
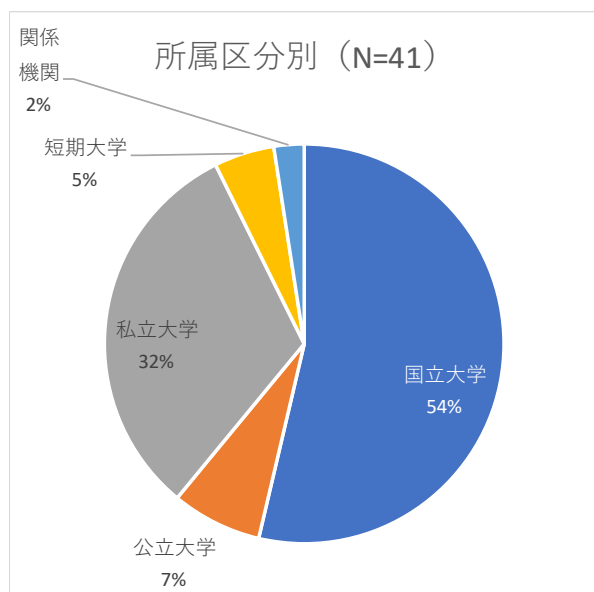
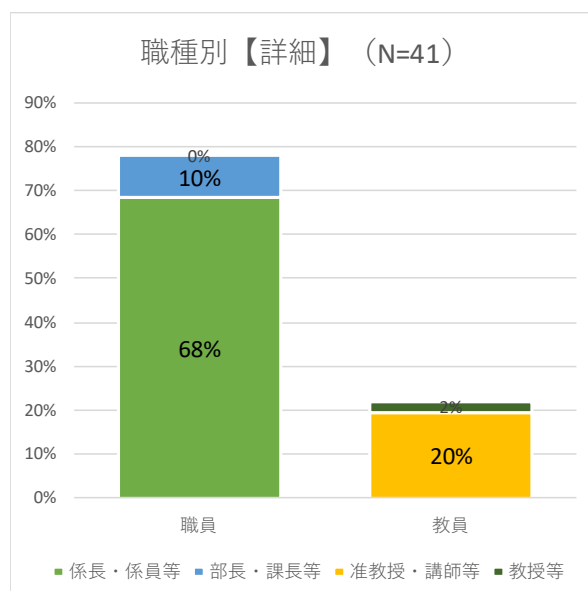
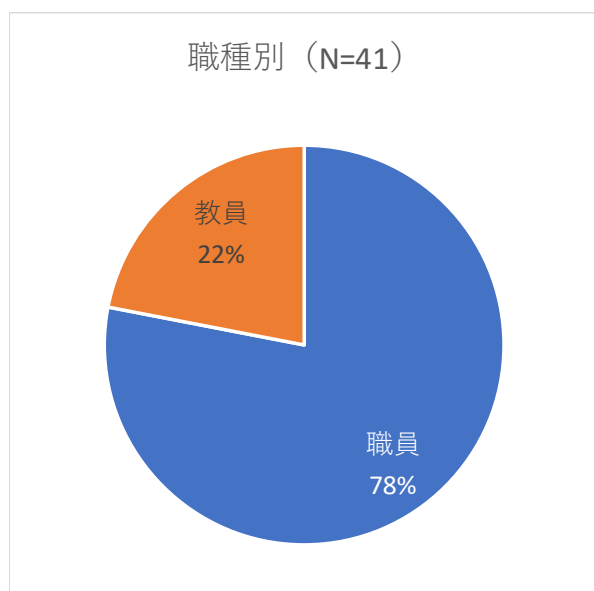


○ 参加者について

1日目（8月22日）に開催した「評価初心者セッション」には、計41名が参加しました。参加者の属性分析は、申し込み時に参加者からご提供頂いた所属や職種等の情報を基に行いました。なお、「参加者」とは、国公立大学、短期大学及び関係機関の「通常会員」であり、運営スタッフである「幹事」の2名を含んでいます。

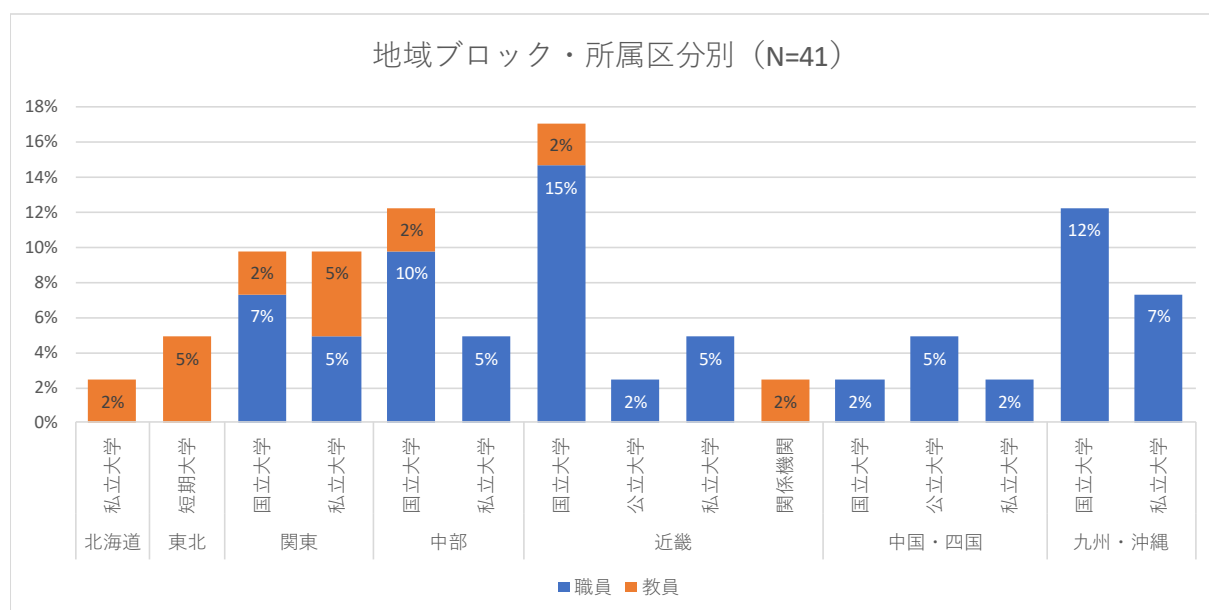
職種別の参加比率では、職員が78%（前年度85%で7ポイント減）、教員が22%でした。また、職員の職層を「部長・課長等」及び「係長・係員等」、教員の職層を「教授等」及び「准教授・講師等」に分けて示すと、職員の係長・係員等が68%（前年度73%で5ポイント減）と最も多く、次いで教員の准教授・講師等が20%（前年度10%で10ポイント増）でした。例年どおり、評価担当職員の方々が多く参加されていましたが、今年度は准教授・講師等が増加傾向でした。



所属区分別では、国立大学が 54%（前年度 55%で1ポイント減）で半数以上を占めており、私立大学は 32%（前年度 22%で10ポイント増）でした。また、本セッションは、機関別認証評価セッションや国立大学法人評価情報交換セッションと同様に、国立大学の参加者が多かった。

地域ブロック別では、近畿地方が 27%で最も多く、次いで九州・沖縄地方が 20%でした。西日本の参加者が半数以上を占めており、他地方の参加比率もほぼ同程度あることから、概ね全国の大学から参加していることが伺えます。

地域ブロック・所属区分別と職種別をあわせて確認すると、近畿地方の国立大学の教職員が 17%と最も多く、次いで九州・沖縄地方の国立大学の職員及び中部地方の国立大学の教職員が 12%でした。



本セッションでは、評価の実務経験がほとんど無い方（概ね1年未満）を対象としており、大学評価担当者の基礎知識と心得、第3巡目の大学機関別認証評価や目標・計画に基づく評価（法人評価の4年目終了時評価等）の概要等に関する講義や演習課題を用いたワークを行ったことから、自己評価書を作成する際に求められる発想法や書き方のポイント等の習得について関心が高かったと推察されます。

(大野 [鳥取大])

■区分表（共通）

地域ブロック	説明
北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
中部	新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県
近畿	大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、三重県、滋賀県、和歌山県
中国・四国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
その他	米国

職種	職種区分	説明
職員	部長・課長等	部長、課長、課長補佐、副課長、専門員、グループ長、グループリーダー、総括主査、事務長、室長、次長、部長、参事、副参事、主務、主幹、など
	係長・係員等	係長、主任、主査、主事、専門職員、課員、係員、チーム員、職員、スタッフ、所員、特任研究員、など
教員	教授等	学長、副学長、学長補佐、部局長、教授、など
	准教授・講師等	准教授、講師、助教、など